

# 奥出雲町の概要

## (1) 奥出雲町の概要

奥出雲町は、島根県の東南端に位置し、中国山地を隔て広島県と鳥取県に接しています。この奥出雲の地は、古事記や日本書紀の中で八岐大蛇(ヤマタノオロチ)退治や、素戔鳴尊(スサノオノミコト)が降臨した地として伝えられており、古くから「たたら」製鉄で栄え、今でも世界で唯一、古来からの「たたら」操業を行い日本刀の原料となる「玉鋼(タマハガネ)」を生産しています。豊富な水資源や冷涼な気候を活かし、水稻、和牛、椎茸、夏キャベツなどの農産物生産が行われています。



横田盆地



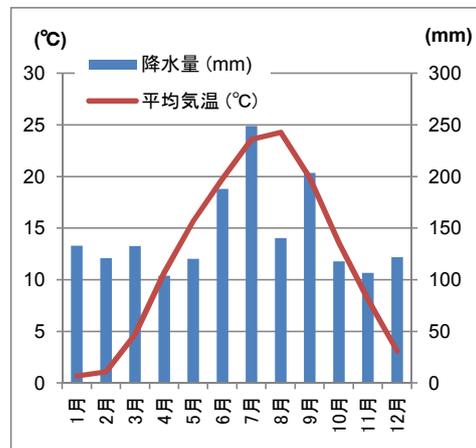
### 【地勢】

奥出雲町は斐伊川最上部に位置し、農地の標高は200～800mにあります。昼夜温度差が大きく、古くから良質の米が生産される地域として知られています。また、産地を切り開いて造成し「横田国営開発農地(290ha)」は大規模営農に適しています。

### 〈関連指標〉

総世帯数	4,891	総人口	14,674
農家戸数	2,082	専業農家戸数	252
農家人口	9,104	農業就業人口	1,539
農業産出額	32.4億円		

出典: 2010年農林業センサスほか



### 【気象状況】

年間平均気温は12.1℃、降水量は1741mmです。

(参考: 広島市16.3℃/1537mm)

夏の日中の気温は都市部と変わらず30度を超える日もありますが、夜は冷房がなくても涼しいくらいまで下がります。冬は雪に覆われ多いところでは1m前後の積雪があります。

### 【交通アクセス】

主な道路は、国道314号線、国道432号線、主要地方道玉湯吾妻山線、横田多里線、印賀横田線などがあります。鉄道についてはJR木次線、バスは奥出雲交通があります。車での各主要都市都までの移動時間は以下のとおりです。

- 松江市 約1時間
- 出雲市 約1時間
- 広島市 約3時間(中国自動車道利用約2時間)

## (2)産地、主要品目の概要

奥出雲町は、古くから水稲と和牛飼育が盛んで「仁多米」や「奥出雲和牛」等の商品名でブランド化が進められています。園芸では冷涼な気候を活かし夏秋キャベツやハウレンソウが生産されるほか、県内最大のトルコギキョウの産地でもあります。



### 〔水稲生産の概要〕

栽培面積	1,440ha	出荷量	6,850t	販売金額	19.1億円
出荷時期	9～10月				
主要出荷先	島根県・関西・中国・九州				
その他	・町内産米の一部は(株)奥出雲仁多米を通じて「仁多米」として取り扱われています。				

### (生産部会の概要)

生産部会名	—	部会員数	—
主な活動・取組	・町内全域で様々な経営体により生産が行われています。		
産地から一言 (地域農業再生協)	・稲作専門経営は初期投資の負担が大きいため、新規就農においては、兼業、複合経営、雇用就農等による営農が考えられます。		



### 〔キャベツ生産の概要〕

栽培面積	15ha	出荷量	335t	販売金額	2,300万円
出荷時期	7月～11月				
主要出荷先	島根県・広島県				
その他	・主産地は標高700mの三井野原高原で、冷涼な気候を活かした夏キャベツの生産が盛んです。				

### (生産部会の概要)

生産部会名	三井野原出荷組合	部会員数	12名
主な活動・取組	・毎月一回勉強会を開催しています。 ・エコ栽培や良食味品種導入等、新商品作りに取り組んでいます。		
産地から一言 (地域農業再生協)	・若い後継者が活躍しています。 ・冬期はスキー関連業に勤める人も多くいます。		



### 〔トルコギキョウ生産の概要〕

栽培面積	2.2ha	出荷量	50万本	販売金額	5,000万円
出荷時期	7月～11月				
主要出荷先	・広島県・岡山県・島根県				
その他	・ハウス栽培による生産が行われます。				

### (生産部会の概要)

生産部会名	三井野原花卉出荷協議会 蔵屋花卉出荷組合	部会員数	9名
主な活動・取組	・技術向上のための研修会を行います。		
産地から一言 (地域農業再生協)	・若い後継者が活躍しています。 ・島根県全域で生産振興を図っている品目であり、県研修会や県オリジナル品種の種苗配布、PR活動等の取り組みが活発に行われています。 ・JA育苗センターから安価で苗を購入することができます。		



\* 数値は2010年農林業センサスほか